



# 読み解く力の必要性

発行部数30万部!!

『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』の著者

新井 紀子さんに聞く

読解力を診断する「リーディングスキルテスト」の研究開発を主導

子どもの読解力の傾向  
リーディングスキルテストでは、説明文を読み解く力を測っています。テスト結果と学力の相関は非常に高く、リーディングスキルテストの結果が学力を決めていると考えてもよいでしょう。燕市をはじめ、全国各地で年間7〜8万人が受検しています。その潜在力を測った結果からわかることは、**半分以上の中学校の生徒は教科書を読み解けていない**ということです。

よる知識を詰め込めば答えられる内容の問題が少なくなったことが原因です。  
なぜ、平均点が下がるような改革をあえて行ったかという点、**21世紀が「文書主義」の時代になる**と言われているからです。  
**読解力の必要性**  
これからは、今までになかった新しい技術が生まれ、慣行によるお手本はありません。自分の考えを正確に表現する力、人の書いた文書を正しく読み解く力が必要となります。  
また、デジタル化が進み新たな職業が創出される一方で、日本の労働人口の約49%が就いている職業が10〜20年後には人工知能やロボットなどが担うことになるとの推計結果も出ています。  
この状況で、これから社会に出る子どもたちは、生涯3回以上転職すると言われており、リスクリングが求められます。これは、技術革新やビジネスモデルの変化に対応するために、新しい知識やスキルを学ぶことです。新たな仕事に就くため、参考書やインターネットから情報を集め、一人で勉強しなければいけません。  
そのときに、一番役に立つのは「読み解く力」「読解力」ということになります。

あらい のりこ  
新井 紀子 さん

- 国立情報学研究所 社会共有知研究センター センター長・教授
- 一般社団法人 教育のための科学研究所 代表理事・所長

※ インターネットの普及によって、知識や情報の伝達手段が、実演や口頭から、テキスト（メールや文書）に移ること。



小学校の授業中の様子

## リーディングスキルテストとは?

右記は、市内の小・中学生が受検しているリーディングスキルテストの問題例です。

このテストは、学力の一番の基礎である「読解力」を科学的に研究している団体「一般社団法人 教育のための科学研究所」が主宰している基礎的な読む力を測るものです。学校の教科書のような基本的な文章の読み取り問題が出題され、どのくらいの読解力があるかを測定します。測定することで、学習のつまずきの原因となるスキルの習得不足や基礎的な知識の欠落、不適切な学習行動といったさまざまな学習の阻害要因が見えてきます。

答え：① Alex

## 特集

# つばめの特色ある学校教育

● 問合せ 学校教育課 指導係 ☎ 0256-77-8191

小・中学校の9年間は人生の土台を築く大切な時期です。市では、子どもたちの大きな可能性を伸ばすために特色あるさまざまな学校教育に取り組んでいます。

今号の特集では、その中でも、子どもたちが新たな可能性を広げ、社会で生きていくために必要なスキルアップを図るための教育「つばめ読解力育成プロジェクト」と「つばめ長善プロジェクト」を紹介します。

### 特色その1

## つばめ読解力育成プロジェクト



読解力とは、文章を読んで書かれた情報を理解するだけでなく、背景を解釈し、熟考する力です。さらに、文章だけでなく、他者とのコミュニケーションの中で相手の状況や感情、伝えたいことを把握し、理解する力でもあり、日常のさまざまな場面で必要とされる能力でもあります。生涯にわたって学び続けるために必要な「読解力」。そして、急激に変化する現代の情報社会において必須スキルとなった「読解力」。

この能力を伸ばしていくことが、とても重要になっていくと捉え、「つばめ読解力育成プロジェクト」を実施しています。

### 問

以下の文を読みなさい。

アレックス Alex は男性にも女性にも使われる名前です。女性の名 アレクサンドラ Alexandra の愛称でもあるが、男性の名 アレクサンダー Alexander の愛称でもある。

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを選択肢のうちから1つ選びなさい。

Alexandra の愛称は ( ) である。

- ① Alex      ② Alexander      ③ 男性      ④ 女性

## リーディングスキルテスト

### 例題

次の問題に  
答えてください。



このプロジェクトが目指すものは、  
**『～生涯にわたって学び続ける～生きる力がみなぎる燕の子ども』**  
 そのためには、「教えてもらう」だけでなく、「主体的な学び」の中で「自ら学びとる」授業づくりを行う必要があります。プロジェクトでは、次の取り組みを行っています。



教えてもらう授業から

**自ら学びとる授業へ**

プロジェクト通信を市ホームページで配信中! [こちらからご覧いただけます](#)▶



## プロジェクトの内容

### 分析・検証

#### ●リーディングスキルテスト

- 小学6年生、中学1～3年生がリーディングスキルテストを受検します。

### 教員の研修 ・授業設計

#### ●中学校区研究会

- 各校は教員の研修テーマに読解力育成の視点を取り入れています。
- 中学校区をグループとして研究会を実施し、授業研究に取り組んでいます。

#### ●全体研修会

- 新井紀子さんを指導者に招き、教員向けの研修会を開催しています。

#### ●視察研修

- 先行して読解力育成に取り組む自治体、学校を訪問し視察研修を行っています。



### 授業実践

#### ●つばめ読解力育成プランの作成・実践

- 指導案、授業記録などを蓄積し、プランの作成と授業改善の実践を行っています。

### 試行錯誤の先に未来がある。

### interview

昨年度から「つばめ読解力育成プロジェクト」をスタートさせました。まず、現場の先生が読解力育成の重要性を理解することをねらいに、新井紀子さんの講演会や小学6年生、中学1～3年生を対象としたリーディングスキルテストを実施しました。

しかし、実際にどのような授業づくりをしていくのかという点は、現在行っている研究会などを通じて、さまざまな意見を出し合いながら、各学級で試行錯誤している段階です。

今までの授業を大きく変えるのではなく、読解力育成の視点で授業を見直し、教材研究や指導場面を工夫していきます。各教科の目標を達成するために、リーディングスキルを活用した授業づくりを積み重ねることで、結果として子どもたちの読解力が育まれていくと考えています。

私たち教員の試行錯誤の先に、燕市の子どもたちに主体的・対話的で深い学びが生まれ、それぞれが明るい未来をつくることのできるのではないかと考えています。

燕市教育委員会  
 主任指導主事 **小池 純一**

## 読解力は I.T.O?

これからの社会を生き抜くための基礎となるのは、**INPUT**【認識】、**THINK**【思考】、**OUTPUT**【表現】です。

インプット  
**INPUT**【認識】

教科書などの文章や図表から読み取ったことを

シンク  
**THINK**【思考】

もと基にして、分かったこと、考えたことを

アウトプット  
**OUTPUT**【表現】

相手に伝える力



### 読解力を支えるリーディングスキル



**リーディングスキル**  
 かか 係り受け解析 / かいせき 照応解決 / しょうおう 同義文判定  
 推論・イメージ同定・具体例同定

### 用語解説

- 係り受け解析 / 主語と述語のつながりが分かる。
- 照応解決 / 「これ・それ・あれ・どれ」など、指し示すものが分かる。
- 同義文判定 / 2つの文章が同じ意味が分かる。
- 推論 / 学習したことを使って「～なので～である」と判断ができる。
- イメージ同定 / 文章と図や表などを正しく対応づける。
- 具体例同定 / 言葉や算数（数学）・理科用語の定義が分かる。

リーディングスキルとは、文章や図表などから正確に読み取るための基礎的な読む力で、**読解力を支える能力**です。必要な情報を文章から読み取るためには、リーディングスキルを身につけておく必要があります。

### 読解力とリーディングスキル

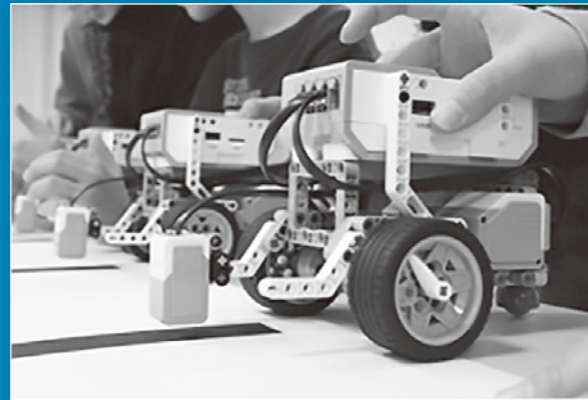
## 長善館学習塾

さまざまな体験や人との関わりを通じて、自立心や助け合う心、問題解決能力を育みます。他の学校の人と仲良くなり、人前で発表する力を高めたい、いろいろなことに挑戦したい人におすすめの取り組みです。今年度は、サバイバルキャンプやビデオ制作、職場体験を実施しました。



## つばくろロボキッズ教室

つばくろロボキッズ教室は、これからの社会を創造していく子どもたちに必要な「プログラミング的思考力（論理的に考える力）」を高め、プログラミングに対する興味関心や学び続ける意欲を高めることをねらいとしています。



## 広報つばめ子ども記者

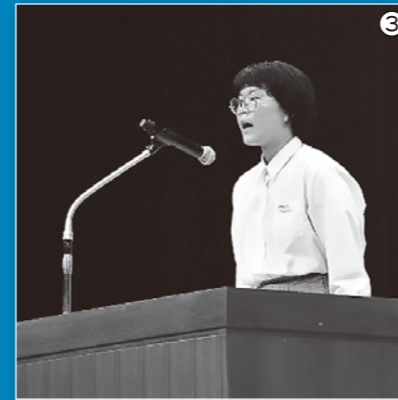
テーマ決めから取材、編集まですべて子どもたちの手による「広報つばめ子ども版」を発行し、活動を通じて、まちへの関心や郷土愛を育みます。なお、今年度の「広報つばめ子ども版」は今号とあわせて、市内全戸に配布します。

## 英語教育の推進

- Jack & Betty 教室
- 英検チャレンジ教室
- 夏休み英会話教室
- 英語スピーチコンテスト
- 親善大使派遣事業

- ① Jack & Betty 教室
- ② 親善大使派遣事業
- ③ 英語スピーチコンテスト

英語でのコミュニケーション活動やプロジェクト活動を通して、世界で活躍するために必要不可欠な力を伸ばします。子どもたちが楽しみながら英語を学ぶ教室や、外国人の指導助手による正しい発音、英語指導助手によるコミュニケーション活動、英語スピーチコンテスト、海外派遣などを実施しています。



## 特色その2

### つばめ長善プロジェクト

市では、子どもたちが新たな可能性を広げることができるよう、「つばめ長善プロジェクト」として、小・中学生向けのさまざまな取り組みを行っています。このプロジェクトは、私塾長善館の教えから、子どもたちの良いところを伸ばして、生きる力を育みたいという思いでスタートしました。これまで多くの子どもたちがプロジェクトに参加しています。

## interview

### 私たちが目指すもの

#### これまでと異なる力

予測困難で正解のない社会を子どもたちは生きていくこととなります。そこで求められる力は、当然これまでとは異なってきます。かつては、早く正確に正解を出す力が求められてきました。しかし、「正解のない社会」に「正解を求める力」ばかり鍛えてもあまり役に立ちません。人工知能によって、人間の仕事の多くが置き換えられると言われていく社会に必要となるのは、「情報をもとに自分の考えをまとめたり、答えのない課題に対して、外国人も含め多様な他者と協働しながら納得解や最適解を見出したりする力」です。情報をもとに自分の考えをまとめるには、「情報を正確に理解する力」が必要です。わたしたちが得る情報の多くは言語（文字）情報であることを踏まえると、情報の正確な理解には「文章を読み解く力」「読解力」がとても大切になってくるのです。

多様な他者との協働には、「コミュニケーション力」が必要です。相手を受容し、適切に主張したり、「折り合い」をつけながら、良好な関係を築くことが大事になってきます。そのためにも、相手の伝えたいことを正確に把握する読解力が大切になってくるのです。

#### 心と学習の必要性

また、「つばめ長善プロジェクト」のさまざまな取り組みは、子どもたちの興味関心や可能性を広げるだけでなく、「つばめっ子かるた」や「燕ジュニア検定」に代表される「ふるさと燕」の学習機会でもあります。「若年期の地域社会（ふるさと）の学習やつながりが、成人後の幸福度を高める大きな因子である」という調査結果があります。ふるさと燕で学び育つ子どもたちに、ふるさと燕への愛着や誇り、つながりを感じてもらえるようプロジェクトを進めています。子どもたちのアイデンティティが形成され、幸福度の高い豊かな人生を送ってほしいと強く願っています。

#### 子どもたちの笑顔が日本一輝くために

幸い、燕市は豊かな自然や歴史・文化に恵まれ、世界に誇る産業もあります。そして、何よりも、子どもたちのために献身的な協力を惜しまない大勢の地域の方々と、市民の皆さまがいます。子どもたちを地域ぐるみで、燕市全体で育てようとする姿や思いをさまざまな場面で拝見しています。

これからも、地域の皆様、市民の皆様のご支援をいただきながら、「日本一輝くまち燕」に「日本一子どもたちの笑顔が輝く」よう全力を尽くしてまいります。



こばやしやすなお  
燕市教育長 小林 靖直